茅野市DX推進協議会とヘルスケアワーキンググループとの関係性

資料2（補足）

茅野市DX外部評価委員会

茅野市DX推進協議会が実施するDX事業に対し、市民等のニーズに照らし事業評価を実施

【メンバー】
- **茅野市における審議会、委員会の委員**
- **知識経験者（理科大　広瀬先生、山口先生）**

茅野市DX推進協議会

茅野市におけるDX事業の検討、推進

企画・運営会議

全体戦略・サービスの協議・検討、部会・WGの設置

【想定メンバー】
- **地域団体代表者**・・・公立諏訪東京理科大学、諏訪郡医師会、茅野商工会議所、諏訪中央病院、茅野市社会福祉協議会、茅野市金融団
- **各ワーキンググループ代表者**・・・全体戦略と足並みを揃えた個別分野の取組推進（民間事業者 等）
- **アーキテクト**・・・DX推進機関の首長的存在（全体設計・折衝・デジタル教育をけん引）
- **アドバイザー**・・・DXの課題分析からシステム等の要件定義、設計を支援
- **市担当者**・・・アーキテクトと連携し、DXを推進（企画・政策部門 等）

事務局

設置

マーケティング・広報部会

住民・観光客や事業者への広報を行うとともに、国や他地域との情報連携を行うのための窓口機能

データガバナンス部会

地域DXに必要なデータ連携基盤（＝都市OS）を含むデジタルシステムを開発運営、API連携、アセット管理や全体セキュリティ担保を担う

ワーキンググループ幹事会

観光　産業　子育て　防災・減災　交通　ヘルスケア

国

デジタル田園健康特区事業

アドバイザー（法律・学術・技術）

【事業】
R4　ヘルスケア分野におけるデジ特区事業の検討
R5～ヘルスケア分野における具体的な事業実施、団体間調整　等

【メンバー】
・諏訪郡医師会（主に在宅医療に関わる医療機関）
・諏訪中央病院（医師、薬剤部）
・諏訪薬剤師会
・訪問看護ステーション

第１回合同会議資料をもとに作成

ヘルスケアワーキンググループにおける当面の協議事項(特区事業)

デジ田健康特区の概要（採択時）

①趣旨・目的

革新的事業連携型国家戦略特区制度を活用し、デジタル技術の活用によって、地域における健康、医療に関する課題の解決に重点的に取り組む複数の自治体をまとめて指定し、地域のデジタル化と規制改革を強力に推進する。

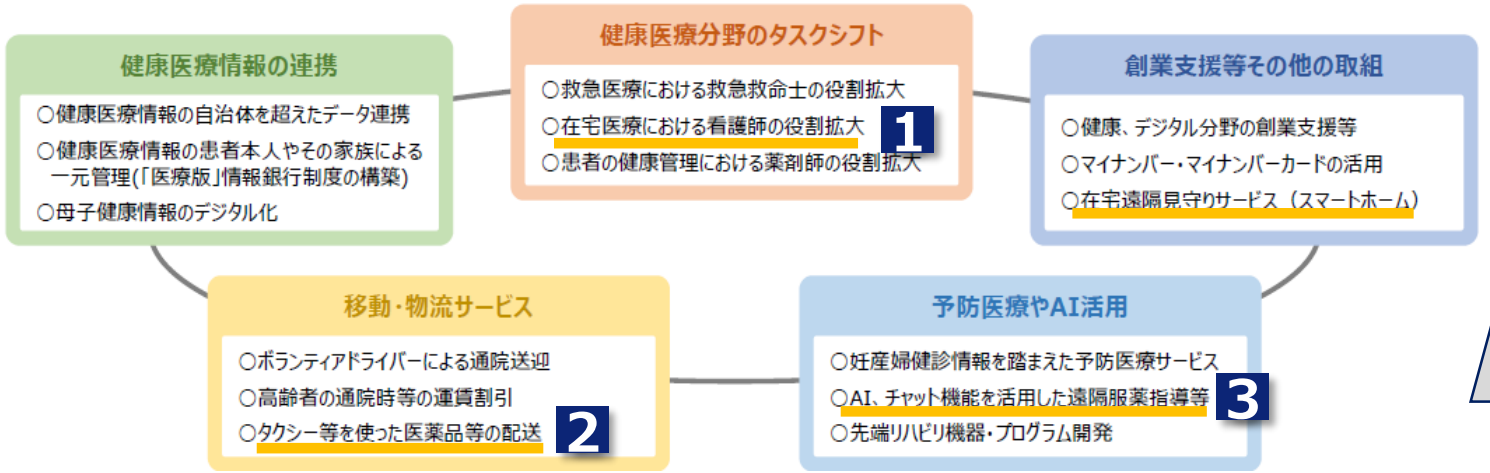
②指定自治体

地域における健康、医療に関する課題の解決に重点的に取り組む自治体のうち、
- ・自治体間の施策連携、データ連携によって各取組の相乗効果が期待されるもの
- ・規制改革について、規制所管省庁と概ね合意した項目が1以上あり、かつ、規制所管省庁との議論が可能な程度に具体化した提案項目が複数以上あるもの

を指定する。　⇒具体的には、岡山県吉備中央町、長野県茅野市、石川県加賀市。

③取組概要

共通の課題認識の下、健康、医療に関する複数のテーマを設定し、自治体間連携により先駆的事業を実施。



茅野市の主要提案事項(区域方針)

1 検討中

在宅医療等における
タスクシフトの推進

2 検討中

医薬品等の効率的配送

3

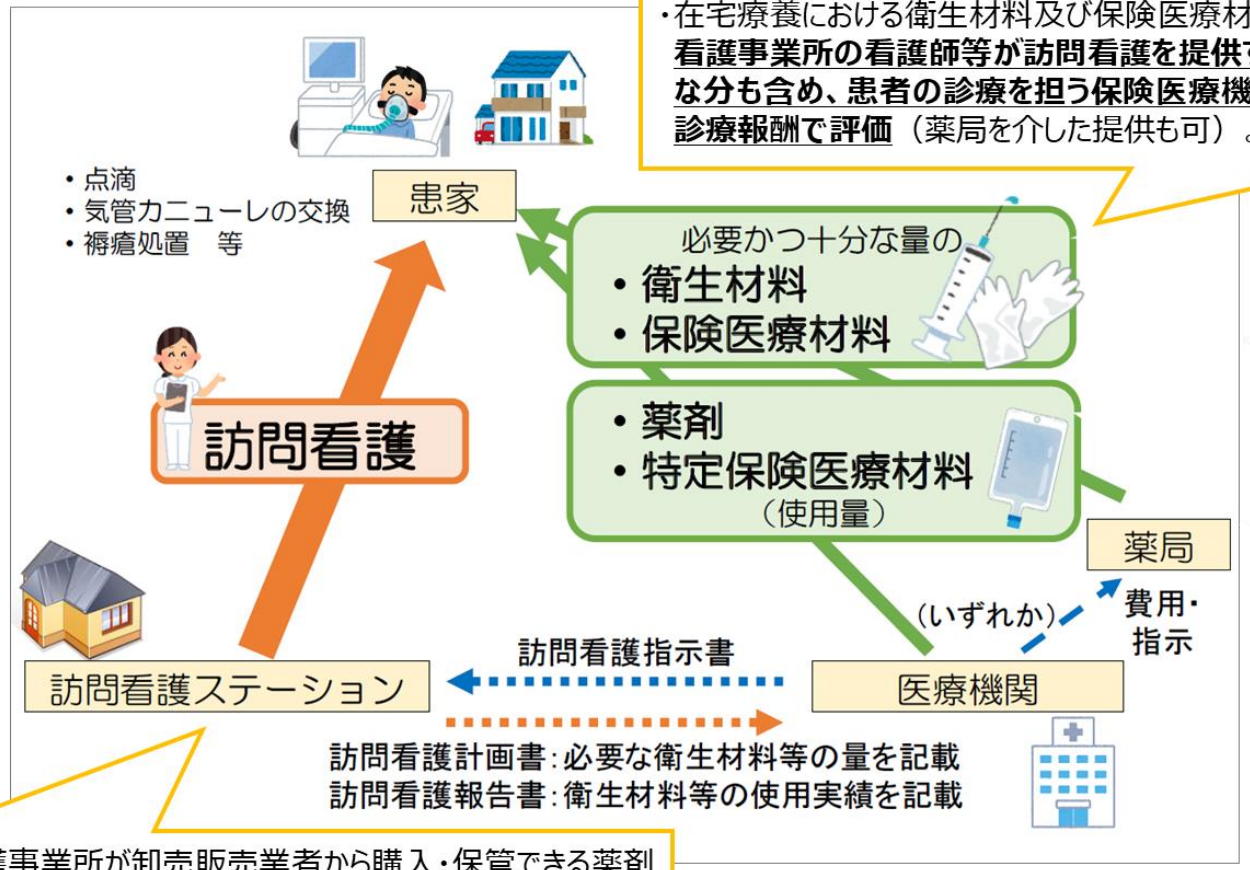
AI技術等を活用した
遠隔医療等の充実

第53回国家戦略特別区域諮問会議資料をもとに茅野市作成

ヘルスケアワーキンググループにおける検討状況
在宅医療等におけるタスクシフトの推進

在宅医療における薬剤等の現行の供給体制

厚生労働省「平成28年度診療報酬改定」から抜粋



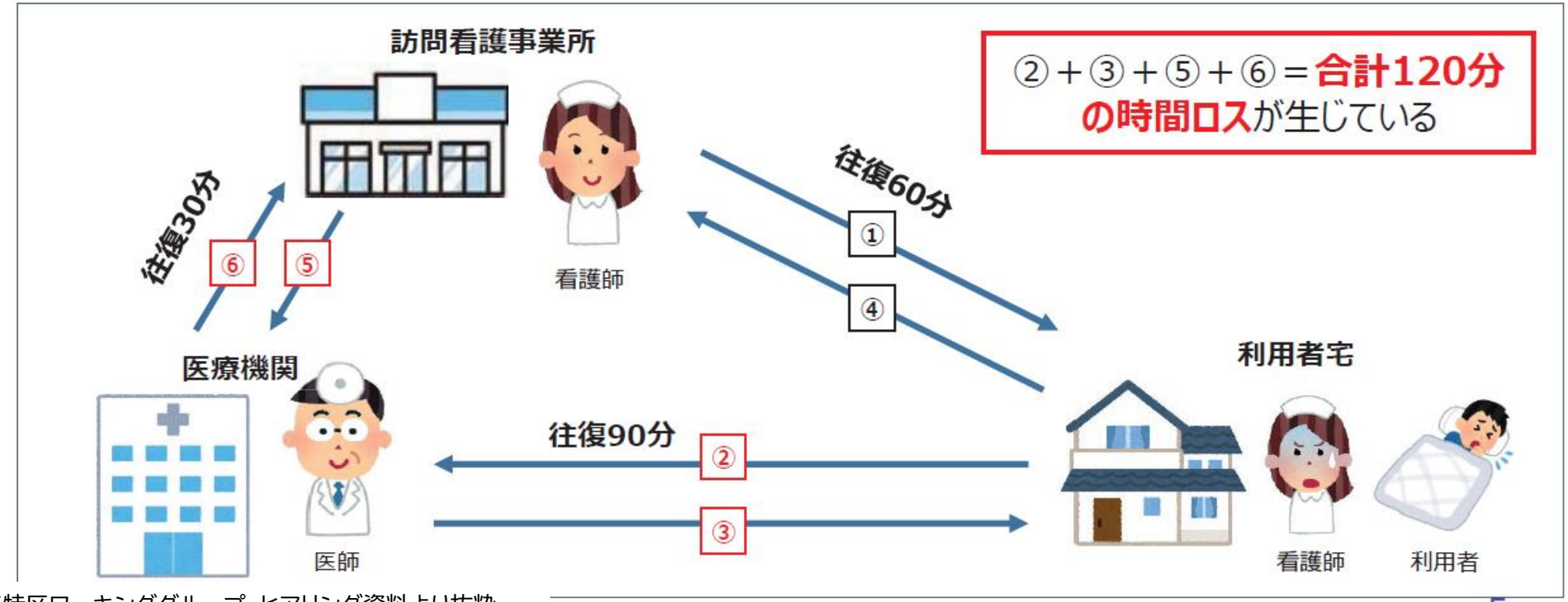
国家戦略特区ワーキンググループ　ヒアリング資料より抜粋

ヘルスケアワーキンググループにおける検討状況

在宅医療等におけるタスクシフトの推進

課題例1

①訪問看護先の利用者が脱水症状。医師に報告し点滴の指示あり
②当該医師の医療機関まで、補液剤や点滴ルート等を受け取るために移動
③利用者の家を改めて訪問し、点滴を実施
④帰所
⑤医師に状況を報告。翌日分の点滴指示あり。医療機関に補液剤や点滴ルート等を受け取るために移動。
⑥帰所



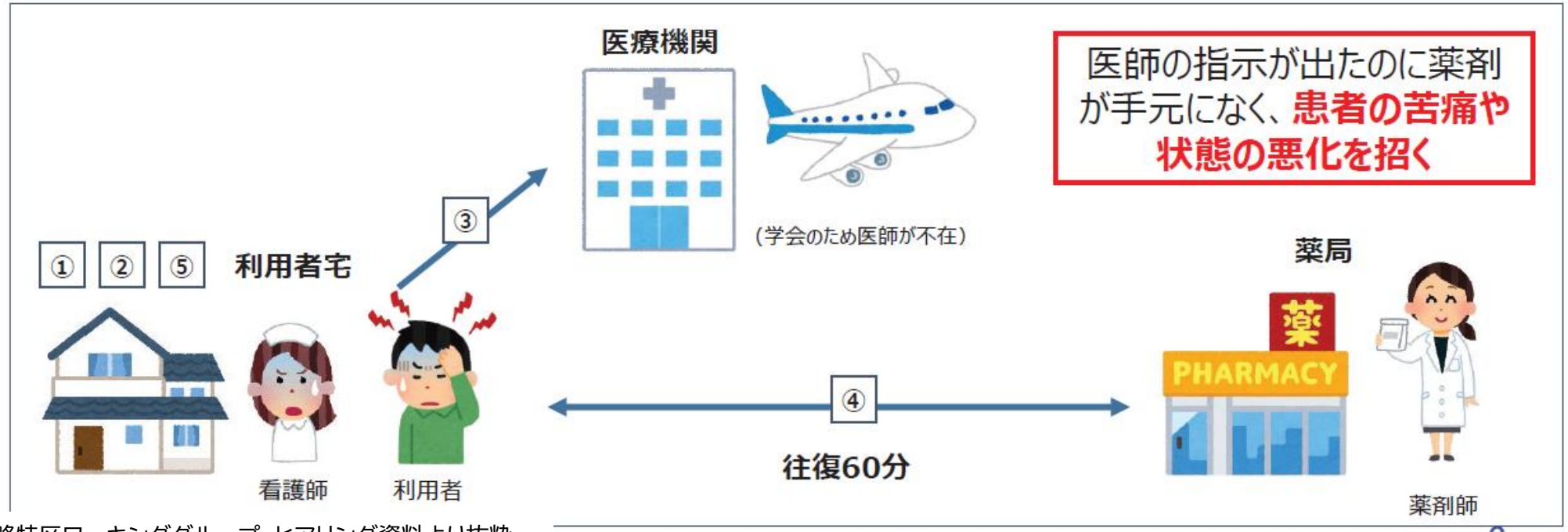
国家戦略特区ワーキンググループ　ヒアリング資料より抜粋

ヘルスケアワーキンググループにおける検討状況

在宅医療等におけるタスクシフトの推進

課題例2

①訪問看護先の利用者が発熱・鼻汁の症状
②家人も、発熱、鼻汁、倦怠感を呈しており、一般的な感冒症状と考えられた
（リスクの高い誤嚥性肺炎や尿路感染等の兆候は、なし）
③利用者は、発熱による倦怠感を訴えているため、医師に報告し、解熱剤の投与を打診。食事量も減っているため、アセトアミノフェン投与の指示が出たが、医師は学会で遠方におり、すぐには処方箋を出せない状況
④クーリング等のケアを行い経過観察したが解熱せず、家人より「熱が下がらず、ぐったりしてきた」との報告あり。遠方の医師と改めて相談の上、往復60分ほど離れた薬局で訪問看護師がOTC薬を購入し、服用させた
⑤利用者は1時間後には解熱し、気分が良くなったとのことで食事も口にすることができた



国家戦略特区ワーキンググループ　ヒアリング資料より抜粋